

2014年2月1日発行

サポセン和歌山

更生保護サポートセンター和歌山：〒640-8157 和歌山市8番丁 八番丁館3階

発行責任者：
和歌山保護司会会長
編集：企画調整保護司
TEL：073-460-9298
Fax：073-425-1301



第63回「社会を明るくする運動」 H25年12月26日／法務省和歌山合同庁舎4階 作文コンテスト優秀作品 14点を表彰



和歌山市からは
5名の方が
優秀作品に選ばれました。

去る12月26日、法務省和歌山合同庁舎4階会議室において、コンテスト入賞者並びに学校賞に選ばれた小中2校の代表者を招き、保護者の方々も一緒になって、晴れやかに表彰式が挙行了されました。

今回のコンテストには県下の各小中学校より、小学校92校 中学校91校、合計183校7,138点の応募がありました。

その中より一次審査で453点、二次審査で20点選ばれ、最終審査において小学校7点・中学校7点計14点が入賞作品として選ばれました。前年度は、応募学校数192校、応募作品数6904点でした。



【最優秀賞】小・中各1点

福田 明音 有田市立箕島小 6年生
・ちょっとの勇気で世界が変わる

中崎 花音 県立古佐田丘中 2年生
・「広げよう、思いやりの輪！」

①写真上：
小学校の部
福田明音さん

②写真左：
中学校の部
中崎花音さん



▲熱心に講評に聞きいる受賞者



▲和歌山県保護司会会長表彰で賞状を授与する小西会長

【優秀賞】小・中各2点

- 橋戸 沙弥 和歌山市立直川小6年生
 ・町の防犯をふやすためには
- 松本 咲来 湯浅町立湯浅小 6年生
 ・「犯罪」から社会へ
- 嘉藤 帆風 広川町立耐久中 1年生
 ・見えないやさしさ
- 岩本 怜 和歌山市立高積中1
 ・社会をよりよくするために
 私達ができること

県更生保護協会理事長賞

- 村中 菜恵 印南町立印南小 3年生
 ・社会を明るくするうんどう
- 船井 博子 県立古佐田丘中 3年生
 ・「明るい家庭から
 明るい地域へ」

県保護司連合会会長賞

- 中山 結夢 有田市立宮原小 4年生
 ・社会を明るくする運動
 柔道大会に学ぶ
- 森口 涼香 智辯学園和歌山中2年生
 ・犯罪者のその後、そして私達

県更生保護女性連盟会長賞

- 金城 志歩 岩出市立山崎小 6年生
 ・社会を明るくする三つの力
- 古川 瑞紀 智辯学園和歌山中 2年生
 ・犯罪者を信じる勇氣

BBS連盟会長賞

- 中村 公香 智辯学園和歌山小 5年生
 ・どうぞ
- 鈴木 愛望 和歌山市立東和中 3年生
 ・社会を明るくすること

学校賞

小学校の部：海南市立塩津小学校
 中学校の部：和歌山市立楠見中学校



▲県更生保護女性連盟賞を授与

和歌山市保護司会 【応募状況】

和歌山大学附属小学校	1点
和歌山市立高松小学校	2点
和歌山市立四箇郷小学校	1点
和歌山市立三田小学校	33点
和歌山市立貴志南小学校	1点
和歌山市立楠見東小学校	2点
和歌山市立和佐小学校	4点
和歌山市立山東小学校	2点
和歌山市立直川小学校	49点
和歌山市立紀伊小学校	1点
和歌山市立藤戸台小学校	1点
智辯学園和歌山小学校	80点
和歌山市立日進中学校	1点
和歌山市立伏虎中学校	1点
和歌山市立東和中学校	20点
和歌山市立明和中学校	28点
和歌山市立加太中学校	8点
和歌山市立高積中学校	23点
和歌山市立楠見中学校	370点
和歌山市立有功中学校	1点
和歌山県立向陽中学校	126点
和歌山県立桐蔭中学校	55点
智辯学園和歌山中学校	210点
近畿大学附属和歌山中学校	5点
応募総数	1,023点



上：BBS連盟会長賞を授与する高垣会長

左：小林保護観察所長より
楠見中学校生徒会長に学校賞の授与

和歌山北支部 県外研修記 宮本 二

11月22日・23日一泊2日
 で県外研修に行ってきました。
 行き先は、兵庫県加古川市の丘陵
 地にある「播磨社会復帰促進セン
 ター」です。

このような刑務所は、全国に4
 か所あるそうです。



この施設は平成19年に開所し
 たということで、施設内見学をし
 てもきれいに整理・清掃されてお
 り本当に新しい施設であることが
 わかります。収容対象者は、初犯
 の男性で比較的軽度（1年～8年
 程度）の刑期であることなどのほ
 か原則として近畿圏在住者などの
 条件的なものもあるようです。

（実情は、近畿圏以外の対象者も
 収容されているとのことでした。）

収容可能人員は1000人で、
 現在の収容人数は803名とのこ
 とでした。敷地は非常に広いので
 （甲子園球場3個分）そんなに多
 くの収容者がいる感じはしません
 でした。居住スペースは、約80%
 が3～4畳の独居房で就寝してい
 ます。

刑務所であるので、刑務作業は
 もちろんあるが、社会復帰のため
 にパソコン・医療・介護・機械等
 の技能検定等の訓練も行われてい
 る。社会に復帰した時の仕事を考
 えて訓練しているのです。

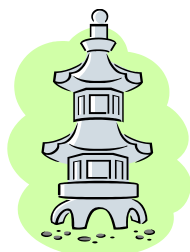
これが、社会復帰促進センター
 なのかなと思った次第です。

（3頁に続く）

余談ではあるが、見学中に受刑者が看守にどこかへ行きたいと話しかけている。(内容は聞こえなかったので不詳) 看守は「行進で行ってきなさい」と指示した。見ていると受刑者の服装をした者は「はい」と返事をして歩き始め、腕は肩まで振り、膝は90度まで上げて行進体勢でその場を離れて行った。やはりここは刑務所なのだ。看守の言うことは絶対なのだという光景を見た感じがした。

この日、近畿道の摂津付近で事故渋滞に巻き込まれ、現場周辺を通過するのに1時間半ほどかかり昼食は施設見学の後宿泊先である三朝温泉へ向うバス車中での弁当となったが、これも今回の思いでの一コマです。

翌日は、倉吉の白壁土蔵の町の散策と東郷湖畔の中国風庭園(燕趙園)を見学。研修を兼ねてではありますが知らない街を散策するのは、ほんとにいいものです。



各支部第4期定例研修予定表

- 東支部：日時：2月19日(水)
13:30～
場所：ビッグ愛601号
- 西支部：日時：3月04日(火)
13:30～
場所：保護観察所1階
- 南支部：日時：2月04日(火)
15:00～
場所：紀三井寺はやし
- 北支部：日時：2月17日(月)
13:30～
場所：河北コミセン

◆研修：「事例研修」

研修テーマ：

「発達障害を有する
保護観察対象者の処遇について」

文芸コーナー：俳句 森 幸子

賀状書く伊万里の皿へ朱を溶きて
 ひとつ家のことりともせず淑気かな
 初句会競いてをりし電子音
 掃初やくせしたたかな棕櫚箒
 使わざる井戸蓋重し注連飾る
 行間のたゆとふ詩情詠始
 唱名の風に途切るる初薬師
 若布干す風のいたぶり始まり
 行幸碑百の水仙香り立つ
 柚子湯出て明日あることを疑はず

新任保護司研修 模様 (第2日目)

去る1月28日、平成25年中に初めて保護司を委嘱された人を対象とした新任保護司研修(2日目)が開催されました。

当日、和歌山保護観察所4階会議室には県下各保護区より35名の保護司が出席。和歌山保護司会からは、西支部4名・南支部1名北支部3名の合計8名が受講されました。

研修内容は、午前中は部外講師による「面接技法について」、午後からは「先輩保護司を囲んでのグループ別座談会」、と終日中身の濃い研修が実施されました。

当日午後の部のグループ別座談会では、事前に受講者より寄せられていた先輩保護司への質問・質疑(保護観察処遇・生活環境調整等について)を中心に先輩の体験談を交え、丁寧に回答するという形式で進められました。

取材に伺い、強い使命感を持ちながらも、不安一杯の新任保護司



▲グループ別座談会の1コマ

の姿と、20数年前の私自身の姿とが重なり、改めて「初心忘るべからず」という思いを、強くした次第です。

参加された先輩保護司の皆さまにとっても、自身の処遇のあり方を見直す貴重な体験であったのではないのでしょうか。(奥田・記)



ご苦勞頂いた先輩保護司の皆さま
和歌山東支部

・内海 敏雄 ・中村 四郎

和歌山西支部

・三木 衛 ・得津壽美代

和歌山北支部

・宮本 二 ・森 幸子

平成25年度 各部専門部会総会 並びに 新年懇親会盛大に開催される。



去る1月20日(月)アバローム紀の国において保護司118名の出席のもと各専門部に分かれて部会総会が開催されました。

引き続き開催された恒例新年会には、市当局や観察所、関係諸団体より多数のご来賓を迎え、総勢123名が参加。和気藹々の活気あるものとなりました。

各部総会報告

◆総務部会◆ 参加者25名

今年度実施の事業報告の後、活発な意見交換が行われた。

人権フェスタ映画会について午前・午後各回約200人の入場者、配布したクリームパンについても好評。また、会長より保護司活動のPRのための話を頂き有効であった。会場案内等改善点はあるが、映画会は来年度も継続した

方が良いとの結論であった。

保護司数の不足についても種々意見交換がなされた。

◆研修部会◆ 参加者31名

4支部合同自主研修会と三者合同研修会(保護司会・更生保護女性会・協力雇用主会)についての感想や反省並びに定例研修についての要望や今後の在り方について部員の方の活発な意見交換があり有意義な部会総会となった。



▲各部総会模様の1コマ

◆犯罪予防部会◆ 参加者30名
先ず和歌山保護司会並びに犯罪予防部会のこれまでの活動報告がなされた。続いて強調月間中の啓発活動については、地域の実情に合わせた多彩な行事を展開された各支部の報告がなされた。

また、部員より小・中学校に「社明作文コンテスト」への応募を依頼する際に、作文テーマに幾つかの副題を設定した方が、理解されやすく、応募もしやすくなるのでは、といった意見が出されました。

◆協力組織部会◆ 参加者32名

今回、各支部正副部長会議を開き、協力雇用主名簿に掲載されている全54社を東支部17社・西支部12社・南支部15社・北支部10社に振り分けして、年度末まで各支部で訪問していただいた報告がされました。

その結果、会社からは、①就労するには資格が必要なので取得してほしい。②新制度のパンフレットでの説明が必要等の報告がなされました。また、就労支援については、観察所の姿勢についても色々と意見要望が出ました。



▲祝舞を披露する南支部・畑口保護司

和歌山市BBS会が「内閣府のチャイルド・ユースサポート章」を県内で初めて受章。

去る12月青少年の健全育成に取り組んでいる和歌山市BBS会が、子どもや若者の育成支援活動を行っている団体に贈られる「内閣府のチャイルド・ユースサポート章」を県内で初めて受章されました。

全国の青少年育成や子育て支援活動例の中から、国が広く社会に広めたいと考える活動に授与されるもので、今年度は25組が受章しました。選考された活動は、和

歌山BBS会が10年前から取り組んでいる「冒険あそび倉庫」の昼回り活動です。月2回程度市内の公園を訪れ、子供達と一緒に遊ぶ活動です。当初は怪しまれることもあったとか。何度も訪れる内に親しくなり、受入れてもらうようになったとのこと。更生保護活動に取り組む仲間が立派な章を受章されたのは、何とも嬉しい限りです。今後とも活動の継続と広がりをお願いいたします。